

■金天海 戦前から在日朝鮮人の左翼運動を指導、長期に拘禁されるも非転向貫き、北朝鮮に密航後も日本向けに活動した。

きんてんかい

子規句歌革新1898＝ 大韓帝國慶尚南道蔚山の方魚津の慶州出身の魚の行商人金徳和の子に、隣の漁村日山里にあった母徐徳連の実家で、生まれる。本名は金鶴儀。  
ピアノ国産化・1900＝ 2歳：妹が誕生(のち右派勢力からの弾圧を恐れ、その存在を隠すようになる)。

方魚津は日本海に面する漁業の中心地で、日清戦争後に日本人漁業者が進出し始めており、

日露戦争中には、その基地になっていて、

日露戦争終・1905＝ 7歳：朝鮮独自の初等教育機関書堂に入学。半農半漁の貧しい家の子として、日常的に日本人の姿を見て育ち、東学党の乱に参加して刑死した親族の話の聞いたり、身の回りでの虐待などを見るうち、釜山の海産物問屋営む叔父の家に寄寓してまもなく、その書堂を卒業。愛国心に目覚める。

伊藤博文暗殺1909＝11歳：家を新築しようとした父が日本人から借金、  
韓国併合・1910＝12歳：この年、日本が韓国併合を強行したのに、衝撃を受け、

明治天皇没・1912＝14歳：

父が借金を返済できず、一家離散状態になり、

第一次大戦始1914＝16歳：生きるため、かつ学ぶため、智異山靈源寺に入り、天海の名を貰って修行、将来を期待されるほどであったが、世界史に関する書物を熟読するうち、疑問を抱くようになり、

民本主義・1916＝18歳：

ロシア革命・1917＝19歳：

下山し、帰郷。

父の仕事の手伝いをしながら、日山里の夜学の教師をつとめ、当地のグループと交流、

ハルビン条約・1919＝21歳：朝鮮全土に三一独立運動が展開するが、この地までは伝わらず、友人の妹李在今と結婚、

長女、長男をもうける。次男は誕生まもなく夭折などするうち、

原敬首相暗殺1921＝23歳：\*日本行きを決意、祖国独立までは死して戻らずと、家族に迷惑かからぬよう身辺のものを焼き、  
水平社結成・1922＝24歳：渡航証明無く、日本人に化け下関に、大阪市梅田の朴広海の部屋に寄寓。日韓併合に尽力した両班階級の親光団に朝鮮独立の意義を説得。一部が応じたが、発覚して逮捕状が出たため、東京に逃げ、日本の状況をもろに受けて共産主義者になる。

関東大震災・1923＝25歳：信濃川朝鮮人虐殺事件が発生すると、在日朝鮮人が在日本朝鮮労働者状況調査会を組織、その委員となすとともに、東京で結成された在東京朝鮮労働同盟会の実行委員となり、その本部で階級闘争を開始。日本行の目的でもあった社会科学を系統的に学ぶため、日本大学に設置されたばかりの社会科学科に入学するが、大震災発生で中断したばかりか、自身も虐殺の対象とされるような事態に遭遇、在日朝鮮人が実態調査するために組織した{罹災同胞慰問団}に参加、在日朝鮮人労働者とともに歩むことを決意するに至る。  
治安維持法・1925＝27歳：治安維持法が成立、以後、この法の監視下の活動になる。朝鮮人の大同団結を目標とする思想団体{一月会}の結成に参加、全国の10数の朝鮮人労働組合団体の大同団結に成功し、在日本朝鮮労働総同盟が結成されると、その地方組織神奈川朝鮮合同労働会の常務執行委員に就任。

円本時代始・1926＝28歳：共産主義系の朝鮮労働青年団の指導者となり、オルグ活動。関東朝鮮労働組合連合会委員長に就任。神奈川県松田町で、町役場と警察署が開いた内鮮融和講演会に、融和に反対する朝鮮人の親分らが乱入し、講演会は中止。乱入者をオルグしていたことが露見し逮捕される。

共産党事件・1928＝30歳：\*在日朝鮮労働総中央執行委員長兼争議部長に就任、全国の在日朝鮮労働運動の最高指導者となった。朝鮮共産党に入党し、東京西南部ヤチエイカの細細胞員になる。大多数の日本総局幹部が逮捕され、朝鮮共産党日本総局責任秘書に就任。朝鮮共産党日本総局と高麗共産青年会日本部は、国恥記念日と関東大震災虐殺同胞追悼記念日に向けて、闘争を組織。集会を開き、デモ行進して、多数が現行犯逮捕。その指導者として、神奈川朝鮮労働組合横浜支部で逮捕、拷問され、朝鮮共産党日本総局関係者多数とともに起訴される。この時、抵抗したもつとも親しかった同志徐鎮文が拷問死。

海軍軍縮条約1930＝32歳：東京地方裁判所で公判が開かれると、被告たちが次々に発言したため、分離裁判に変更。

満州事変・1931＝33歳：幹部の大量検挙で、朝鮮共産党日本総局は解体。懲役5年の実刑判決を受け、控訴。

五一五事件・1932＝34歳：控訴審で刑が確定し、市ヶ谷刑務所に服役。

国際連盟脱退1933＝35歳：冬の秋田刑務所に移される。

帝人疑獄事件1934＝36歳：獄内新聞を発行して懲罰房に入れられる。

芥川直木賞始1935＝37歳：結核を患い、出獄。多くの在日朝鮮人に迎えられる。横浜に帰り、合法的に{朝鮮新聞社}を設立し、新聞によるオルグの体制を整えると、各地で{愛国者金天海先生出獄歓迎会}を名目にオルグ活動。特高警察2人付いて監視するなか、東海、京阪地方を回り、名古屋市では合同労働組合に所属する朴広海と再会。

二二六事件・1936＝38歳：野坂参三と山本懸蔵連名の「日本共産主義者への手紙」に呼応、人民戦線の実践を企図。{朝鮮新聞}も全国に多数の読者組織を立ち上げる。朴も、融和派の大家を説得し、高山線沿線の飯場や朝鮮人部落に組織をつくって夜学会を始め、闘争を開始。\*天津の紡績工場でオルグ活動を行ううち、盲腸炎を患い、説教カンパを得て入院、手術後、またも逮捕される。朝鮮人の人民戦線運動家一斉検挙で、朴広海も逮捕。

日中戦争始・1937＝39歳：懲役4年の判決、膳所刑務所に入れられ、独房生活を送る。

日米開戦・1941＝43歳：治安維持法が改正で、共産主義から転向しない限り釈放もなくなるが、転向を拒否したため、

近代の超克・1942＝44歳：\*刑期満了するも、東京・豊多摩刑務所の東京予防拘禁所に送られる。肺結核が悪化し、腸結核に進行して、歩くこともできず、山辺健太郎に介抱される。

創価学会検挙1943＝45歳：

年金+総武装 1944＝46歳：朝鮮総督府から創氏改名の通知が来るも、拒否。

敗戦・1945＝47歳：東京空襲で、府中刑務所に移送されてまもなく、\*敗戦で、多数の政治犯とともに出獄、全員が連合国軍最高司令官総司令部に連れて行かれ、事情聴取される。在日本朝鮮人連盟が結成され、最高顧問に就き、かつての新聞同志と{解放新聞}を発刊。日本共産党第4回大会で中央委員、中核7人の政治局員にも選ばれる。

新憲法公布・1946＝48歳：左右対立激化のなか、北海道旭川市の炭鉱近くの朝鮮人部落を訪れ、朝連への参加を呼びかけ、全員が参加を決める。声をかけた民青メンバーが各所を襲撃、MP司令部に警告される。

極東裁判判決・1948＝50歳：皇居前広場での、朝連と日本共産党共同開催の生活防衛・反ファシヨ人民大会でアジ演説を行う。朴烈らによる暗殺計画があるも、朴烈は、若手アナキストによって、民団長を辞任させられる。このころ内縁関係にあった金恩順は、後に朝連婦人部二代目部長となり、在日本朝鮮民主女性同盟の初代委員長となる。\*在日本朝鮮人連盟に解散命令が下され、同志の朝連幹部とともに、公職追放。病気の回復もままならず、

朝鮮戦争始・1950＝52歳：\*日本共産党からも追放されて、境港から釜山、さらに、北朝鮮に密航帰国。

独立回復・1951＝53歳：朝鮮労働党第2回大会で、労働党中央委員・社会部長に就任したらしい。日本へのラジオ演説を開始。

メデ-事件・1952＝54歳：日本向けラジオで「在日同胞に訴う」を演説。

TV放送始・1953＝55歳：\*共和国努力勲章を受章し、

55年体制始・1955＝57歳：平壤放送で在日朝鮮人に向けて「8・15解放10周年を祝おう」と訴える。

国連加盟・1956＝58歳：「在日朝鮮公民の帰国と大村収容所の釈放問題は正当に解決されるべき」声明を発表。

なべ底不況・1957＝59歳：朝鮮総連に激励の辞を送り、\*祖国戦線中央委員会で議長に選出され、

安保闘争・1960＝62歳：{8.15朝鮮解放15周年慶祝朝日朝協会使節団}を平壤の飛行場で出迎える。

ソビエト病始・1961＝63歳：金恩順が北朝鮮に帰国した後、子宮癌で死去すると、その葬儀に参列。

大阪万博・1970＝72歳：\*再び祖国戦線中央委員会議長に選ばれたのを最後に、労働党第5回大会で中央委員名簿から消え、

ドボルジャック・1971＝73歳：\*没したといわれる。